

性行為感染症を防ごう

松山で桜井裕子さん講演

10代など若い女性に広がっている性行為感染症（STD）を防ごうと、ジャーナリストの桜井裕子さんを迎えた講演会（産経新聞松山支局など後援）が28日、松山市内で開かれた。

講演は、健全な男女共同 井さんは「若者に蔓延する
参画社会をめざす会（小笠 性感染症」と題して講演。
原ミワ子会長）が主催。桜 講演などによると、11年前

の国の推計でも、淋病、クラミツアなどのSTDに全
国の男性約25万人、女性35
万人が感染しているとされ
ている。特に15～19歳の年
代でSTDが急増してい
る。

淋病、梅毒、クラミツア
などの治療は可能だが、病
原体の多くが耐性を持ち、

クラミツアは不妊、子宮外
妊娠、流産の原因ともな
る。深刻なのは若い女性に
増えている子宮頸がん。初
性交年齢が16歳以下だと、
19歳に比べて16倍、初潮か
ら1年以内だと、10年以上
に比べて26倍も子宮頸がん
になりやすいというデータ
もあるという。

同会は、これまでの性教
育のあり方そのものを問
い、規範意識をもった「家
族や人間の価値を教える性
教育」の必要性を訴えてい
る。